白石壽文著
『育つことば育てることば＝国語・言語の教育＝』

「言語文化」。これが本書のキーワードであろう。序章において、「これからの国語科教育の中核的目標は「言語文化」に基本を求めなければならない」とあるように、著者は、言語と言語活動の「文化」を国語教育において創造することを目指す。本書は、このような目標を掲げながら、国語教育全体を視野に入れつつ、特に書く学習と音声言語の学習において、それらが「文化創造」のレベルに達していないと指摘する。したがって、本書は、具体的な提案としては、書く学習と音声言語の学習が中心となっている。

本書の構成は次の通りである。まず、序章において、「言語文化」に根ざした国語教育が提案される。第一章では、「言語の教育としての基本的課題」について述べられている。第二章では、「言語の教育」における「書きことば」について、語句・語彙の指導、文法指導、漢文の指導を、授業実践の記録をまじえながら提案がなされている。第三章では、「言語の教育」における「話しことば・生活ことば」について述べられている。近年見直されている音声言語教育について、実践を基に提案がなされている。最後に終章では、「育つことば育てることば」として、今後の音声言語教育において、話し手の育成はもとより、聞き手の育成の見直しについて提言されている。

以上が、本書の概略である。国語教育の多方面に渡って、提言・提案がなされているが、どれも切れ味鋭く、また具体的な実践を基に述べられているのでわかりやすい。特に、近年見直されている音声言語教育については、示唆深いところが多いので、この分野について関心のある方のみならず、国語教育に携わる人は必読の書といえるのではないだろうか。

（A5判　二一八ページ　一九九六年一月　東洋館出版社　二五〇〇円）

（真木　昭久）